

1 まちづくり

(1) 減災について

- ① 今年台風に伴う暴風雨による被害が磐田市においても多発した。事前の避難準備・高齢者等避難開始が発令される中、災害種別の市民にとって分かりやすい避難場所の見える化と、地域の共助として、避難行動要支援者名簿の地域との共有について伺う。また、緊急避難場所としての交流センター開放についての検討を伺う。
- ② 指定緊急避難場所等におけるペット飼育場所の公表と暴風雨時の室内飼育場所の検討、同伴避難の方向性を伺う。
- ③ 長期停電時における医療体制の整備について以下伺う。
 - ア 磐田市立総合病院の7日間以上使用可能な発電装置燃料の確保と断水対策について伺う。
 - イ 民間医療施設の予備電源装置と貯水槽の状況と課題及び対応について伺う。
- ④ 浜岡原発再稼働NOへの市長の意思を伺う。また、有事の際のヨウ素剤配布や広域避難計画に伴う訓練実施の検討を伺う。

(2) 地域づくりについて

- ① 暴風雨災害や人口減少に伴う地域の課題は今後山積していくと見込まれる。市民自治に立った、社会の変化に多様に対応できる自治がますます重要になっていくと考えられる。自治基本条例を地域住民と行政の協働で整備していく検討について伺う。
- ② 地域づくりには、自治会の組織の充実と共に、地域課題を解決するために活動する個人や市民団体、NPO法人などの活動を充実させ、多様な地域住民に寄り添うサービス向上が今後さらに求められてくる。庁内において、それらに対応する所管の充実について伺う。

(3) 高齢者と障がい者が生き生きと活躍できる社会について

少子高齢化が進む中、高齢者や障がい者対策は支援から自立支援へと変わってきている。今後、高齢者や障がい者が生き生きと活躍できる社会であるために以下質問する。

- ① 高齢者と障がい者の市内企業の雇用状況と今後の充実について伺う。
 - ② 年齢75歳以上の高齢者や障がい者手帳保持者を対象にしたデマンド型乗合タクシー無料化の検討を伺う。
 - ③ 公共施設や公道の整備、また都市計画作成にあたって、ユニバーサルデザインを計画段階から位置づけることについて伺う。
- (4) 次世代育成が進む磐田市について
- ① 31年の10月、3歳以上の幼稚園・保育園・こども園利用者は無料化される予定である。移行への様々な調整があると思うが、磐田市の方向性について伺う。特に、給食費、預かり保育料など幼保間での調整は。また、待機児童解消につながる施設の充実など計画があれば伺う。
 - ② 保育士確保という喫緊の課題について国も重い腰を上げ、保育士給与の処遇改善を始めている。また、東京では更に4万円の上乗せ、県内でも他市では保育士の住居補助、保育士養成学校との連携や授業料減免などの確保策を図っている。磐田市独自の具体的な保育士確保策について伺う。
 - ③ 就園前の子育て環境は整っているが、18歳以下の学齢期の子ども達の居場所が保護者から求められている。改めて、児童館の再整備の検討について伺う。

2 ひとづくり

(1) 文化芸術の振興について

少子高齢化が進む中、次世代を担う人づくりには、生活文化や伝承文化の継承と芸術文化の振興が重要であり、それが持続可能な地域活性化の実現になると考え、以下質問する。

- ① 学校・家庭・地域の連携による、幼児から保護者までを対象にした多様な文化体験事業の実施について伺う。

② 美術館・博物館等の見学機会を活用した体験学習の実施について伺う。

③ 文化芸術振興条例の制定による文化行政と文化振興について伺う。

(2) 共生社会の推進について

人口減少時代、長寿社会は今まで日本が経験したことの無い新たな社会を模索しながら築くことになる。人権と共生社会について第一義に考える時期にきていると思い、以下質問する。

① 男女共同参画社会の推進

ア 市職員の管理職に女性の登用と女性審議会委員比率の向上を伺う。

② 多文化共生社会の推進

ア 外国人の転入が増えている。多文化共生施策の現状と課題、充実について伺う。特に初期支援教室(N I J I)の充実について伺う。

イ 大人が気軽に交流し、情報を共有できる「多文化共生センター」の整備を伺う。